

# 寺子屋塾 3 学期講座概要(全 1 1 講座開講)

## 火曜日(3 講座開講)

### 留学生の見た日本の文化(計6回)

**授業時間: 午後の部(14時50分～16時20分)** 初日:1/17 講師:高坂 史朗  
日本ではさまざまな国の外国人留学生が日本の文化や社会を学んでいます。彼ら中国・韓国・ベルギー・オーストリア・ロシア・インドネシアなどの留学生たちの目を通して、日本の観光、ファッション、ホームレス、環境、生き方など私たち日本人にとっては自明となっている文化や社会の姿を見つめ直したいと思います。また日本の文化の対比を通して、それぞれの国の文化を外国人留学生に紹介してもらいます。



### 自力で作る家(計6回)

**授業時間: 午後の部(15時00分～16時30分)** 初日:1/17 講師:奥富 利幸  
20世紀は大量生産と大量消費の時代であり、家も例外ではありませんでした。住む人は、自分の家を誰が設計し、誰がつくったのかを知らないままに生活をしています。とても便利な時代ではありますが、何か物足りなさを感じてしまいます。太古から人間は、自らの手でモノをつくりだして生活を豊かにしてきました。モノをつくることは苦勞もありますが、楽しみもあります。本講座では、セルフビルドを貫く建築家・建築史家の藤森照信教授の家造りを読み解いていきます。



### マルティン・ハイデッガー-「言葉」を読む

**授業時間: 午後の部(16時30分～18時00分)** 初日:1/17 講師:山取 清  
言語はコミュニケーションの道具であるといわれます。しかしそれに尽きるでしょうか。わたしたちは覚めていても、夢をみている、耳をすませて聴いているときも、何かに読みふけているときでも、どこかで語っています。語ることは人間にとってそれほど自然なものです。この講座では、人間が思索しながらあらゆるものを見つめるときに、直ちに言葉に突き当たるという事実に着目し、ハイデッガーとともに「言葉が語る」という観点から、言語とは何であるのかという問題について考えます。



## 水曜日(3 講座開講)

### 村上春樹の長編小説をテーブルにあらためて人間と文学について語り合う(続)(計6回)

**授業時間: 夜の部(18時30分～20時00分)** 初日:1/18 講師:清 真人  
拙著『村上春樹の哲学ワールド』(はるか書房、1,900円)をいわば議論のテーブルにして、村上文学のなかで人間が抱えるどんな問題がどんな仕方とされているかを振り返りながら、あらためて人間について語り合しましょう。物語への欲求、記憶とアイデンティティ、運命、自閉からの解放、愛、性とエロス、暴力、等々のテーマが浮かんでいきます。カフカ、ロレンス、三島の短編やニーチェの文章の一部も、村上文学と関連づけて覗いてみる予定です。



### 歌舞伎の表現(計6回)

**授業時間: 夜の部(18時30分～20時00分)** 初日:1/18 講師:林 公子  
江戸時代から明治時代までの約300年間、日本の現代劇だった歌舞伎の作品は、非常にバラエティに富んでおり、その表現方法も多岐に渡っています。歌舞伎は「型」によって表現されていますが、同じ作品でもさまざまな「型」があり、多彩です。本講座では、歌舞伎の作品を、現代の舞台映像で紹介し、そこから、歌舞伎の持つ多様な表現方法を探るとともに、歌舞伎の歴史にも迫りたいと思います。



### 源信「往生要集」(第一巻)を読む(計9回)

**授業時間: 夜の部(18時30分～20時00分)** 初日:1/18 講師:長崎 誠人  
平安時代に比叡山の僧侶源信によって書かれ、日本の浄土教の基礎を築いた『往生要集』の第一巻を受講生と一緒に読みます。穢らわしい世界を離れ(厭離穢土)、死後に極楽浄土へ往生する(欣求浄土)ためには念仏する以外にないと説いた『往生要集』が日本文化に与えた影響は多大なものがあります。その世界を受講生とともに味わいたいと思います。(テキストは配布予定です。)



全講座の時間割はお申込みの際にお渡しさせていただきます。  
募集定員に達しない場合は、講座を開講しないことがありますのでご了承ください。

## 木曜日(4講座開講)

『源氏物語』を原文で楽しく読む

昼の部：計6回(15時00分～16時30分)

初日：1/19

夜の部：計6回(18時20分～19時50分)

初日：1/26

講師：近藤 百合子

原文を声に出して読んでいきます。音読することで、黙読では見過ごしがちな原作の息遣いやリズムを身体的に直接的に味わうことができます。時には登場人物に、時には作者になりきって、平安貴族の愛と苦悩の世界に遊びましょう。瑣末な文法や語釈にこだわらず、場面場面に関連するエピソードを他の古典作品から引用紹介しつつ、楽しく読みすすめます。前回の続きとして、昼の講座は「空蝉」巻から、夜の講座は「賢木」巻の後半から始めます。体験入学の方には、「これまでのあらすじ」をお渡しします。



イギリス・ゴシック小説を読む(計9回)

授業時間：夜の部(18時00分～19時30分)

初日：1/26

講師：清水 伊津代

イギリス近代小説には、わたしたちの中のさまざまな欲望を解放し、そのエネルギーの過剰性と逸脱性を夢想して楽しむ、ゴシック小説の流れがあります。E. S. ラブキンは、「現実に縛られないことこそ人間の栄光である」(『文学と幻想』)と云いましたが、本講座では、人間や世界における無秩序で本源的な異相を暴き出して現実を更新しようとするゴシック小説『ドラキュラ』(ブラム・ストーカー著、1897年)を読み、わたしたちの自由な発想を鍛えて楽しみたいと思います。



シュロモー・サンド『ユダヤ人の起源』を読む(計6回)

授業時間：夜の部(18時30分～20時00分)

初日：1/19

講師：鈴木 伸太郎

2学期に引き続き、『ユダヤ人の起源』を皆さんと一緒に読みます。「ユダヤ人」というのは、はたしてひとつの「民族」として成立するのだろうか、というテーマを扱っている本です。近年の歴史研究の成果を踏まえつつ、わたしたちの「常識」を次々と揺さぶります。本講座では、特に「順番」や「分担」を定めたりせずに、分からないところや興味深いところを巡って互いに議論したり、わたしの解説を加えたりしながら進めますので、2学期から参加されていない方でも取り組みたいと思います。



## 土曜日(1講座開講)

今だから「世界宗教の経済倫理 序論」を読んでみよう(計6回)

授業時間：土曜日の部(15時00分～16時30分)

初日：1/21

講師：堀田 泉

マックス・ヴェーバーの宗教社会学論集は難解な書物ですが、ひとつひとつの言葉とセンテンスを吟味し、それらに関連づけて理解しようすると、現代の社会の病弊と希望への道筋が行く手に見えてきます。率直に向き合い、耳を傾けることによって、わたしたちが今、この社会に在ることの意味がさまざまに問い直されていくでしょう。この経験をこの講座で共有してみましよう。



日本文化研究所長

### 講座一覧表

都合により日程等変更の場合があります

講座名 (2012年1月～3月)	回数	初日	講師	時間 & 曜日
1 留学生の見た日本の文化	6回	1/17	高坂 史朗	14時50分～16時20分(火曜日)
2 自力で作る家	6回	1/17	奥富 利幸	15時00分～16時30分(火曜日)
3 マルティン・ハイデッガー『言葉』を読む	6回	1/17	山取 清	16時30分～18時00分(火曜日)
4 村上春樹の長編小説をテーブルにあらためて 人間と文学について語り合う(続)	6回	1/18	清 真人	18時30分～20時00分(水曜日)
5 歌舞伎の表現	6回	1/18	林 公子	18時30分～20時00分(水曜日)
6 源信『往生要集』(第一巻)を読む	9回	1/18	長崎 誠人	18時30分～20時00分(水曜日)
7 『源氏物語』を原文で楽しく読む(昼の部)	6回	1/19	近藤 百合子	15時00分～16時30分(木曜日)
8 『源氏物語』を原文で楽しく読む(夜の部)	6回	1/26	近藤 百合子	18時20分～19時50分(木曜日)
9 イギリス・ゴシック小説を読む	9回	1/26	清水 伊津代	18時00分～19時30分(木曜日)
10 シュロモー・サンド『ユダヤ人の起源』を読む	6回	1/19	鈴木 伸太郎	18時30分～20時00分(木曜日)
11 今だから「世界宗教の経済倫理 序論」を読んでみよう	6回	1/21	堀田 泉	15時00分～16時30分(土曜日)